

## 「IT賞（マネジメント領域）」を受賞 制御機器アップデートの内製化を通じてデジタル人材を育成

理研ビタミン株式会社（本社：東京都新宿区、社長：山木一彦）は、2021年12月2日に発表された、公益社団法人企業情報化協会が主催する「2021年度（第39回）IT賞」において、「IT賞（マネジメント領域）」を受賞しました。

なお、今回の受賞については、2022年2月3～4日にザ・プリンスパークタワー東京で開催されるIT戦略総合大会において表彰式典が執り行われる予定です。



【受賞種別】IT賞（マネジメント領域）

【テーマ】 「目指せ！二刀流！製造担当者のデジタル人材化によるDX推進の基盤構築」

### ■ IT賞について

IT賞は、産業界ならびに行政機関などの業務における事業創造、効果的ビジネスモデルの構築・促進、生産性向上等、“ITを高度に活用したビジネス革新”に顕著な努力を払い成果を挙げたと認めうる企業等に対して、企業情報化協会が授与するものです。

### ■ 制御機器アップデートの内製化を通じた人材育成の取り組みが評価

食品工場においてDXを推進するには、①デジタル人材の確保、②IoT非対応の生産設備の制御機器の刷新、という2つの課題を解決する必要があります。

そこで、当社草加工場では「制御機器アップデートの製造担当者による内製化」という実現目標を設定し、製造担当者が制御プログラムやIoT技術を習得するための教育体制を整備するとともに、トライ&エラーを重ねながら自力で制御機器のアップデートを進めました。この結果、デジタル人材の増加、制御機器アップデートの内製化による3,000万円相当のコスト削減、ネットワーク化による遠隔モニタリングおよび予知保全体制の構築、老朽設備の刷新などを実現し、DX推進の基盤を構築することができました。

こうした実践的な人材育成の取り組みが評価され、今回の受賞に繋がりました。

※受賞理由の詳細は別紙参照

当社は今後、草加工場での取り組みを他工場にも展開し、将来的な競争優位性の獲得に向けてDXを推進していきます。

お問い合わせ先  
理研ビタミン株式会社 広報・IR室 井上・清水  
TEL:03-5362-1315

## 【受賞種別】 IT賞（マネジメント領域）

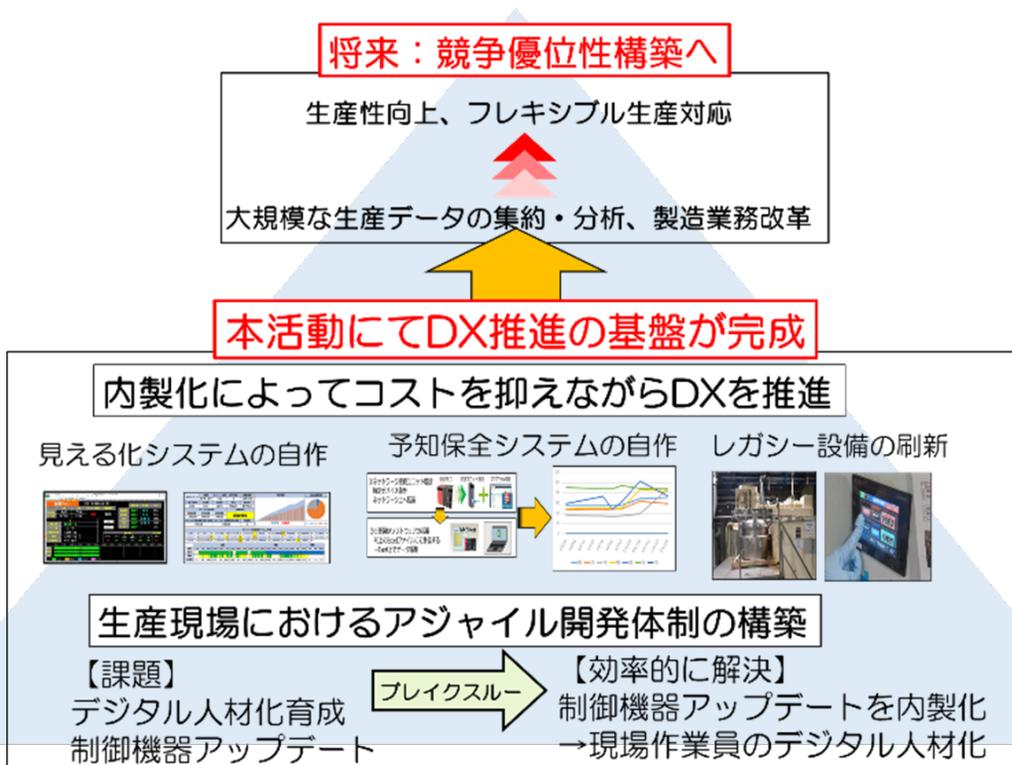
【テーマ】 「目指せ！二刀流！製造担当者のデジタル人材化によるDX推進の基盤構築」

## 【受賞理由】

理研ビタミン社草加工場では将来の競争優位性構築を実現すべく間接部門ではBPR研究会を、製造部門にはイノベーション研究会を設け、DX推進に事業所を挙げて取り組んできた。特に生産現場におけるデジタル人材の育成のための切り口として、「制御機器アップデートの製造担当者による内製化」という実現目標を設定し、製造担当者への制御プログラム及び関係するIoT技術の習得及び実践を進めた。この結果、IoT技術習得者の拡大、設備の制御部リプレースの内製化による3,000万円相当のコスト削減、ネットワーク化による遠隔モニタリングおよび予知保全体制の構築、老朽設備の制御部刷新を実現し、将来の事業競争力に貢献する大きな成果を得た。

一般に食品製造業は商品ライフが長いことや製造プロセス技術が成熟していることから設備がロングライフ化しやすい傾向にあり、業界各社とも設備更新の困難やIoT対応への遅れなど同様の課題を抱えていることが推定される。一方で市場からの多品種化ニーズとの板挟みになっていることから、理研ビタミン社の取り組みは業界各社の範例となるマネジメント上の成果を示しており、IT賞授賞に値すると評価したものである。

&lt;参考図&gt;



本活動は、**人材育成を根幹**としコスト抑制を実現しながらDXを推進する事例であり、同様の課題を抱える企業に**水平展開できる可能性は高い**